

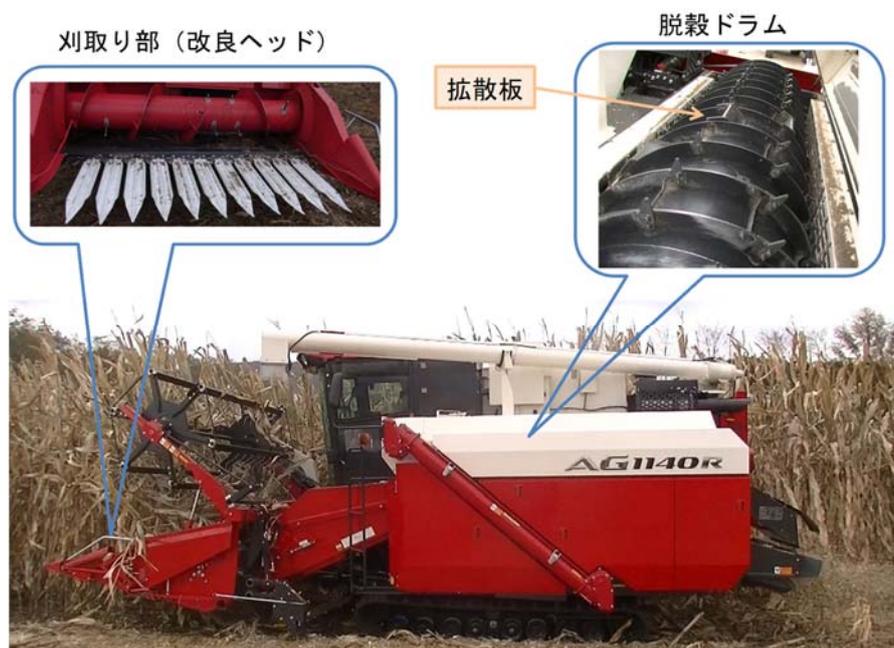
国産汎用コンバインによる子実とうもろこしの収穫

畜産試験場

家畜のエサとなる子実とうもろこしの国内需要は約1,500万トン（うち1,000万トン程度が飼料として利用）であり、これまでは、ほぼ全量を輸入に頼ってきましたが、2011年（平成23年）から北海道の水田転換畑で栽培が始まり、大型の輸入コンバインを用いて収穫されるようになってきました。生産された子実とうもろこしは養豚農家や養鶏農家等で利用されています。

2016年（平成28年）から国産汎用コンバイン（長野県内では大豆やソバの収穫で利用）に装着できる子実とうもろこし収穫キットが販売されるようになり、本州以南の狭い圃場でも子実とうもろこしの収穫ができるようになりました。

同年から長野県畜産試験場では子実とうもろこし収穫キットを装着した国産汎用コンバインを用いて、作業能率と収量性、機械収穫に向く作型や品種に関する試験を始め、2カ年の研究成果をWeb上で公表しています（<https://www.agries-nagano.jp/wp/wp-content/uploads/2018/06/2017-2-g35.pdf>）。2018年（平成30年）からは水田転換畑における子実とうもろこし生産の試験を開始し、本年は県内の農業生産法人で実証試験を行いました。



国産汎用コンバインによる子実とうもろこしの収穫
（青枠内は子実とうもろこし収穫キットを示す）

担当者	浅井 貴之	電話番号	0263-52-1188
-----	-------	------	--------------